

小泉潟公園周辺の鳥類

—1976年以降の記録から—

佐藤 武 視*

はじめに

1971年4月から、この地に勤務するようになり、1981年3月まで県立金足農業高等学校必修クラブで生徒たちと観察をしてきた。同年4月からは博物館勤務になった。この間、当地域は公園施設整備が進み、まわりは大きく変わってきている。ここで過去10年間の観察結果をもとに、鳥類の飛来状況を報告する。

調査地の概要

当公園は秋田市の中心部から北へ約15km地点にあり、県立都市公園第1号として整備が進行している。

公園域は男潟と女潟で大半を占めている。男潟は湖面域35.6haで農業用水に利用されている。1980年頃までは初夏から晩秋までハス・ヒシ・コウホネなど浮葉植物に被われていたが、現在は消滅状態である。女潟は湖面域約23haでヨシ・マコモなどが繁茂し、男潟の取水に伴ない水が落ち、夏季には大半が低層湿原化する。

この潟は、植生上学術的価値が高いものとされている。なお、潟の東側は比高10m位の丘陵からなり、雑木林である。しかし、環状道路や公園施設の整備が進行中で、雑木林の伐採や土砂の掘削等によって、環境は大きく変貌してきている。また、この公園の一面には県立博物館と林泉廻遊式日本庭園である水心苑がある。この二つの潟を中心にして県立小泉潟公園に指定されている。なお、公園の西側には秋田県立金足農業高等学校の校地が隣接している。

調査方法

1981年3月までは金足農業高校必修クラブ野鳥研究の生徒諸君と月平均3回（水曜日・1回当り50分）の

観察で、ラインセンサスと定点観察をした。同年4月以降は概ね筆者ひとりで公園周辺全域の調査のため、毎月2回・木曜日または土曜日の午後に観察してきた。

博物館周辺は随時観察してきたが、識別には8倍の双眼鏡と25～50倍望遠鏡を使用した。

調査結果

1. 調査期間内に確認した鳥類の種名・渡り・生息状況・主な観察結果について。

2. 和名・学名とその配列は日本鳥学会(編)・日本鳥類目録 改訂第5版 1974年に準じた。

3. 渡りについては秋田県内を基準にして留鳥・漂鳥・夏鳥・冬鳥・旅鳥・迷鳥の生態区分をした。確定的でないものは()を付した。

鳥類目録

カイツブリ科 PODICIPITIDAE

1 カイツブリ *Podiceps ruficollis*

留鳥 毎年男潟で観察される。常に6月には巣立ちびなをみる。厳寒期・全面凍結する時期を除き生息する鳥種である。当地ではガニガモの方言で呼ぶ。

2 ハジロカイツブリ *Podiceps nigricollis*

冬鳥 1978年11月22日・1979年11月21日・1984年11月14日に冬羽の1羽を観察。内陸の湖沼では珍しい。くちばしが上に反り、他のカイツブリとの区別がつきやすい。あまり警戒しない。

3 ミミカイツブリ *Podiceps auritus*

冬鳥 1976年12月1日男潟で初めて観察した。以後1981年11月14日・1984年11月16日に冬羽の1羽を観察している。県内への渡来は少ないと思われる。

*秋田県立博物館

4 カンムリカイツブリ *Podiceps cristatus*

冬鳥 1976年11月6日男瀉で初記録後、1977年と1978年11月1日には3羽・1980年3月12日・1981年11月14日に各1羽を観察している。従来、秋田県では迷鳥とされてきた鳥種である。

サギ科 ARDEIDAE

5 ヨシゴイ *Ixobrychus sinensis*

夏鳥 女瀉のヨシ原と瀉向の水田を往復している。毎年5月以降11月上旬まで2～4羽観察されるので繁殖の可能性が高い。

6 ゴイサギ *Nycticorax nycticorax*

(漂鳥) 1984年4月10日博物館裏の杉林で8羽、同年12月19日夕刻にも同じ場所で1羽の声を確認した。

7 ササゴイ *Butorides striatus*

漂鳥 1985年7月7日男瀉西側のクロマツの樹上で激しく鳴く1羽を初記録、7月13日雌雄とみられる2羽を同じ場所で観察。9月14日まで瀉周辺で観察された。

8 ダイサギ *Egretta alba*

(漂鳥) 1979年9月15日・1980年5月14日の2回女瀉南部開水域の水辺で採餌を観察。県内への飛来は少ない鳥種である。

9 コサギ *Egretta garzetta*

漂鳥 毎年1～2個体を観察する。8～9月の減水期の男瀉に現われる。

10 アオサギ *Ardea cinerea*

漂鳥 毎年冬期間を除いて観察される。単独行動が多いが、1980年10月29日は男瀉に7羽飛来し4日間逗留した。

ガンカモ科 ANATIDAE

11 ヒシクイ *Anser fabalis*

冬鳥 毎年春秋の渡りの時期に上空を通過することは多いが、湖面に降りることは少ない。1979年10月19日3羽・1983年3月1日2羽、男瀉小泉部落側湖岸で観察したのみである。

12 オオハクチョウ *Cygnus cygnus*

冬鳥 1976年1月3日女瀉に6羽、同年3月・12月に各3羽女瀉で確認、以後1977年11月に男瀉で2羽1979年12月17日女瀉で9羽・1982年3月18日に8羽

飛来している。1983年1月10日女瀉に2羽飛来し、全面凍結した湖上に2月10日まで逗留し、近くの住民からパン屑などの給餌をされたが、1羽は落鳥したそうである。残りの1羽は11日に飛び去った。

13 コハクチョウ *Cygnus columbianus*

冬鳥 1979年3月3日女瀉で3羽観察したが、うち1羽は亜成鳥で首に赤リングをつけていた。数字の読み取りはできなかった。

14 マガモ *Anas platyrhynchos*

冬鳥 二つの瀉が凍結する厳寒期を除いて9月から翌年1月上旬までに毎年70～120羽は飛来する。ヨシの繁茂している女瀉に多い。

15 カルガモ *Anas poecilorhyncha*

留鳥 周年観察され、繁殖もしている。例年、狩猟期に入ると700羽を越す群になる。1978年10月11日には男瀉で123羽のうちアルビノ1羽を観察した。

16 コガモ *Anas crecca*

冬鳥 最も早い時期に飛来する種類である。開水域にいたることが少なく、女瀉のヨシの叢生するところを好む。毎年渡来する。

17 ヨシガモ *Anas falcata*

冬鳥 1976年11月17日・1978年9月13日・1979年9月と11月・1980年11月15日に各雄1羽を観察。9月は他のカモ類もエクリプスが多く、見落しがあるかも知れない。

18 ヒドリガモ *Anas penelope*

冬鳥 1981年秋から急に数を増し、200羽前後が男瀉の湖中央部に集まる。

19 オナガガモ *Anas acuta*

冬鳥 女瀉の約30aの狭い開水域で毎年観察される。渡来当初の9月は大部分エクリプス状態である。

20 ハシビロガモ *Anas clypeata*

冬鳥 1982年10月2日女瀉でエクリプス8羽、1985年4月18日に1982年と同じく水域で6羽観察。

21 ホシハジロ *Aythya ferina*

冬鳥 毎年男瀉に多く飛来し、カモ類の中では個体数が多い鳥種である。1980年11月5日750羽カウントしたのが最高である。

22 キンクロハジロ *Aythya fuligula*

冬鳥 毎年のように男瀉湖中央部の広い開水域に飛来する。

23 スズガモ *Aythya marila*
冬鳥 男潟・女潟ともに毎年観察される。年によって渡来数に変動が多い鳥種である。

24 ミコアイサ *Mergus albellus*
冬鳥 1981年3月18日男潟に雌雄2羽, 1984年11月18日♀2羽観察。

25 カワアイサ *Mergus merganser*
冬鳥 1976年12月1日男潟で雌1羽, 1985年11月17日♂1羽観察。内水面を好む鳥にしては当地では珍しい鳥種である。

ワシタカ科 ACCIPITRIDAE

26 ミサゴ *Pandion haliaetus*
漂鳥 1985年4月26日水心苑上空で初めて確認して以来, 7月は観察の都度, 男潟の上空を飛んでいた。10月11日以降は観察していない。

27 トビ *Milvus migrans*
留鳥 個体数は10羽以下で少ないが, 1年を通じて観察される。1982年には男潟北西部のクロマツ林で3巣が育すうしていた。なわばり意識は少なかった。

28 オオワシ *Haliaeetus palagicus*
(迷鳥)・冬鳥 1978年1月17日, この日は全国一斉ガンカモ類調査日で猛吹雪だった。男潟は80%近く凍結していた。その永雪上に1羽観察したが, 数分してハンブトガラスに追い立てられ北西方向へ飛び去った。

29 オオタカ *Accipiter gentilis*
漂鳥 1984年11月18日博物館主催の探鳥会で男潟行塚部落のマツの梢に2羽観察。眼下にいるカモの群を狙っていたようである。

30 ハイタカ *Accipiter nisus*
漂鳥 オオタカを観察した同日, 女潟東部の雑木林で1羽観察。

31 ノスリ *Buteo buteo*
留鳥 1978年, 1979年, 1981年, 1984年, 1985年の1~2月に女潟上空からえさを探す姿が見られた。

ハヤブサ科 FALCONIDAE

32 ハヤブサ *Falco peregrinus*
留鳥 毎年冬に観察する機会が多い。1978年9月12日には金足農高実習職員室の窓に衝突し, 回復後放

鳥した。

キジ科 PHASIANIDAE

33 キジ *Phasianus colchicus*
留鳥 当公園周辺の林内で下草の生育するところには必ず生息している。1984年2月16日には博物館会議室ガラス窓を破り雄1羽が衝突死した。冬季は金足農高農場での採餌が観察される。

クイナ科 RALLIDAE

34 ヒクイナ *Porzana fusca*
夏鳥 毎年男潟最北部行塚の水田・女潟南西部の水田と休耕田で観察される。

35 パン *Gallinula chloropus*
夏鳥 1980年頃までは男潟・女潟ともに2~6羽が5~11月まで毎年観察されたが, この頃を境に男潟ではほとんど観察されない。

36 オオパン *Fulica atra*
漂鳥 毎年両潟で観察される。湖面が凍結しない限り, いつでも生息している。最多記録は1979年11月21日男潟の130羽である。女潟では繁殖を確認している。

チドリ科 CHARADRIIDAE

37 コチドリ *Charadrius dubius*
夏鳥 1977年6月2日逢の橋そばの干潟に3羽(うち1羽はふ化間もない幼鳥)。1980年6月25日女潟で1羽, 1985年6月21日小泉部落墓地の下の干潟に2羽。女潟の干潟は環状道路完成後は消滅した。

38 ケリ *Microsarcops cinereus*
夏鳥 1978年5月23日金足農高実習田に2羽飛来。1984年3月12日男潟西側の砂場に1羽。ハンブトガラスを盛んに攻撃していた。

シギ科 SCOLOPACIDAE

39 タシギ *Gallinago gallinago*
冬鳥 1978年4月28日金足農高果樹園で翼骨折の1羽を收容・初記録である。

カモメ科 LARIDAE

40 ユリカモメ *Larus ridibundus*

小泉瀉公園周辺の鳥類

冬鳥 1985年10月11日男瀉で3羽。当地初記録である。

41 コアジサシ *Sterna albifrons*

夏鳥 1978年6月6日男瀉に1羽。1979年9月5日男瀉に6羽。1985年6月と7月7日～13日まで男瀉に3羽滞在した。

ハト科 COLUMBIDAE

42 キジバト *Streptopelia orientalis*

留鳥 最もふつうに毎年、1年を通じて観察される。巣立ちびなを観察しているが、公園内での繁殖は確認していない。

ホトトギス科 CUCULIDAE

43 ジュウイチ *Cuculus fugax*

夏鳥 1985年5月18日女瀉サイクリング道路の雑木林で鳴く1羽を確認。当地初記録である。

44 カッコウ *Cuculus canorus*

夏鳥 毎年5月中旬に渡来し、男瀉の西岸で観察される。この地域はオオヨシキリとモズが営巣しているので仮親探しのためと思われる。

45 ツツドリ *Cuculus saturatus*

夏鳥 1980年6月5日金足農高陸上競技場北側クロマツ林で嘔鳴する1羽を確認。当地初記録である。

46 ホトトギス *Cuculus poliocephalus*

夏鳥 1981年5月2日博物館裏山で雄の声を聞く。1982年4月28日公園管理事務所横のスギ林で雄1羽の嘔鳴を聞く。

フクロウ科 STRIGIDAE

47 フクロウ *Strix uralensis*

留鳥 1983年5月2日博物館裏のスギ林で確認後1984年9月、1985年6月にいつも同じ場所で観察した。1984年にはペリットを採集した。

アマツバメ科 APODIDAE

48 ハリオアマツバメ *Chaetura couadacuta*

夏鳥 1976年8月18日男瀉上空から博物館上空にかけて12羽。この日、最高気温29℃になった日で湖上の上昇気流にのった昆虫を採餌しているかのような状態であった。1985年7月17日博物館上空に4羽。

49 アマツバメ *Apus pacificus*

夏鳥 1981年5月18日夕刻約10分間博物館上空をせし回する42羽を観察。

カワセミ科 ALCEDINIDAE

50 カワセミ *Alcedo atthis*

留鳥 1976年7月28日逢の橋たもとでダイビングする1羽。1982年3月25日博物館前の女瀉で雄1羽。同年9月7日には博物館ベランダに雄1羽衝突死があった。

キツキ科 PICIDAE

51 アオゲラ *Picus awokera*

(漂鳥) 1978年1月4日男瀉西側マツ林に1羽。1981年3月4日と11月14日男瀉西部ニセアカシア林で1羽づつ。1982年4月28日水心苑前フジ棚で1羽を観察。

52 アカゲラ *Dendrocopos major*

(留鳥) 毎年観察されるが、1984年・1985年は雌だけの観察に終わった(各1羽づつ)。

ツバメ科 HIRUNDINIDAE

53 ショウドウツバメ *Riparia riparia*

旅鳥 1978年5月23日男瀉水面上で22羽初観察して以後、両瀉を通じて春4～5月の渡来期と秋の渡去期の8～9月には30羽程度の群で観察されるようになった。

54 ツバメ *Hirundo rustica*

夏鳥 毎年4月から9月まで観察される。この間、金足農高畜舎では営巣し、巣立っている。

55 コシアカツバメ *Hirundo daurica*

夏鳥 県内でも海岸部では観察例の多い鳥種である。本調査地では1982年5月22日女瀉のヨシ原上をとぶ1羽を初めて記録した。

56 イワツバメ *Delichon urbica*

夏鳥 1976年4月18日女瀉上空をとぶ1羽。当地で初記録後、同年8月25日金足農高実習田で幼鳥1羽を生徒が拾得した。

セキレイ科 MOTACILLIDAE

57 キセキレイ *Motacilla cinerea*

留鳥 1978年9月13日男潟嶋崎公民館下の水場に1羽。1985年11月17日水心苑芝生で1羽観察。本調査地では飛来の少ない鳥種のひとつである。

58 ハクセキレイ *Motacilla alba*

留鳥 当地では最もふつうのセキレイである。通年観察され、博物館屋上で繁殖もした。

59 セグロセキレイ *Motacilla grandis*

留鳥 1978年1月18日、男潟は珍しく凍結しない水域が約半分で、その氷と水の境で採餌する1羽を観察。1982年10月2日水心苑前菖蒲園で8羽を観察。

60 ビンズイ *Anthus hodgsoni*

漂鳥 1980年5月10日渡り途中と見られる1羽を女潟畔の公園のあるクロマツの枝上に観察する。

ヒヨドリ科 PYCNONOTIDAE

61 ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*

留鳥一部(漂鳥) 毎年々間を通じて観察される。10月以降50羽前後の群で南下するのが観察される。

モズ科 LANIIDAE

62 チゴモズ *Lanius tigrinus*

夏鳥 1978年6月14日男潟畔の旧金足農高水田跡のヤナギの枝上で雄1羽を観察、当地初記録である。

63 モズ *Lanius bucephalus*

(留鳥) 通年観察される鳥であり、繁殖も確認している。特に1978年6月29日には金足農高果樹園の洋梨の棚上の枝に営巣し、農薬散布時など心配したが、3羽巣立った。

64 アカモズ *Lanius cristatus*

夏鳥 1984年5月25日 博物館前庭サルスベリの枝上で初記録。27日夕刻まで滞在した。

レンジャク科 BOMBYCILLIDAE

65 キレンジャク *Bombycilla garrulus*

冬鳥 1975年1~3月にかけて当公園域のほか市街地でも目撃した年である。1982年3月16日4羽がヒレンジャク6羽との群で博物館前の植え込みのタマツゲの果実を採餌していた。

66 ヒレンジャク *Bombycilla japonica*

冬鳥 キレンジャクと混群で1982年3月16~17日まで博物館周辺で観察された。

ミソサザイ科 TROGLODYTIDAE

67 ミソサザイ *Troglodytes troglodytes*

漂鳥 当地では毎年1~3月にかけて逢の橋付近と男潟東部マツ林の草藪内で観察されるが個体数は少なく、2~3羽である。水心苑前サイクリング道路入口付近にも毎年出現する。

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

68 コマドリ *Erithacus akahige*

夏鳥 1979年10月28日南下途中とみられる雄1羽が金足農高牛舎の窓に衝突死していた。当地初記録である。

69 ジョウビタキ *Phoenicurus auroreus*

冬鳥 1974年4月19日金足農高果樹園で初記録以後観察の機会がなかったが、1985年4月13日梅林園で雄1羽を観察した。

70 ノビタキ *Saxicola torquata*

旅鳥 秋田湾の海岸沿いの草地や砂防林では春秋の渡りの季節に観察される鳥種である。海岸から離れている金足農高実習田の稲刈り間近い水稲の穂桿に止る冬羽の1羽が1980年9月27日に観察された。

71 トラツグミ *Turdus dauma*

漂鳥 1980年10月17日金足農高校舎で1羽、1981年8月23日、1983年9月12日博物館で各1羽。3例とも建物の窓ガラスに衝突死であった。当公園周辺は渡りのコースの一部とみられる。

72 クロツグミ *Turdus cardis*

夏鳥 1984年4月23日、1985年4月22日、両日ともに博物館裏山で雄1羽の嘔鳴を聞く。

73 シロハラ *Turdus pallidus*

冬鳥 1977年10月21日金足農高定時制職員室(2階)南側ベランダガラス窓で衝突死が記録されてから毎年10月すぎから渡来し、越冬を観察するようになった。

74 ツグミ *Turdus naumanni*

冬鳥 毎年2月以降5月下旬まで観察されるが、特に5月中・下旬は博物館周囲の芝生に10~20羽の群での採餌が目立つ。

75 ウグイス *Cettia diphone*

漂鳥 毎年4月下旬から本調査地周辺では嘔鳴を聞くが、6月中旬から10月中旬まで鳴き声、姿とも観

察することがない。この間は近くの山地等へ移動し繁殖しているとみられる。

76 コヨシキリ *Acrocephalus bistrigiceps*

夏鳥 1976年7月・1979年5月・1982年5月・1983年5月、女潟のヨシ群落で雄1羽のさえずりを観察しているが営巣の有無は未確認である。

77 オオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus*

夏鳥 小泉潟公園内のヨシ原には毎年5月に飛来し営巣している。今までの雄個体の最高は1980年6月25日調査で14羽であった。

78 メボソムシクイ *Phylloscopus borealis*

夏鳥 1977年9月2日金足農高校舎窓ガラスに1羽衝突死したのをはじめ、この年は10月上旬までに3衝死体を拾得。1982年5月31日博物館裏山で渡り途上の2羽の嘔鳴を聞く。同年9月7日と18日には1個体づつ博物館ベランダの窓ガラスに衝突死していた。

79 センダイムシクイ *Phylloscopus occipitalis*

夏鳥 1976年8月26日金足農高校舎窓ガラスに衝突した1羽(回復後放鳥)が初記録であったが、1984年8月24日博物館ベランダ窓ガラスに衝突死したものと1985年5月15日朝博物館裏の林で雄1羽のさえずりを聞いた。

80 キクイタダキ *Regulus regulus*

漂鳥 当公園域はクロマツ・アカマツの樹木が多く毎年11月以降翌年4月頃までカラ類との混群で観察する機会が多い。

81 セッカ *Cisticola juncidis*

夏鳥 1976年7月28日雄雌2羽が逢の橋近くのヨシの中を移動しているのを8月25日まで観察したが、営巣の確認は得られなかった。

82 オオルリ *Cyanoptila cyanomelana*

夏鳥 1983年5月1日、1985年5月11日女潟南側造成地のホオノキの樹上でさえずる1羽を観察。繁殖地へ向う途中とみられる個体であった。

83 コサメビタキ *Muscicapa latirostris*

夏鳥 毎年5月に渡来する。男潟東部のマツ林と水心苑裏の雑木林等で観察される。1980年5月巣材を運ぶところを観察したが、繁殖の確認はできなかった。

84 サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata*

夏鳥 1985年7月24日博物館管理棟西側のマツ林で雄のさえずり2回を聞く。当地初記録である。

エナガ科 AEGITHALIDAE

85 エナガ *Aegithalos caudatus*

留鳥 毎年カラ類と混群で観察することが多い。晩秋から冬季にかけて館周辺での目撃回数は多くなる。

シジュウカラ科 PARIDAE

86 コガラ *Parus montanus*

留鳥 毎年観察されるが、大部分は11月から翌年2月頃までである。他のカラ類やキクイタダキ・エナガなどとの混群で観察されるが、群の中で最も個体数は少ない。

87 ヒガラ *Parus ater*

留鳥 シジュウカラとの混群で観察することが多い。夏季に当地で観察した記録はないが、他の季節には必ず観察される鳥種である。

88 ヤマガラ *Parus varius*

留鳥 1年を通じて観察される。他のカラ類と混群のこともあるが、単独行動の方が多い。潟向のソメイヨシノの樹洞に営巣したことがあるが、人的妨害により巣立たなかった例がある。博物館の周囲にはエゴノキが多く、硬実を啄食したり、運び去るのが観察される。

89 シジュウカラ *Parus major*

留鳥 年間を通じ最も観察の機会が多い鳥種のひとつである。博物館周辺ではマツ林等での採餌コースが決まっているかのように規則的である。繁殖をしている。

メジロ科 ZOSTEROPIDAE

90 メジロ *Zosterops japonica*

漂鳥 毎年冬季間を除いて観察される。特に4月下旬は群として観察することが多い。ソメイヨシノの植栽が多い金足農高校地は蜜吸いに集まる群でにぎわう季節である。

ホオジロ科 EMBERIZIDAE

91 ホオジロ *Emberiza cioides*

留鳥 当地の3~6月はソングポストに樹頂を占有

し、嘯鳴するのが目立つ。女潟周辺の梢がポイントであったが、環状道路が開通してからは個体数が減少したように思われる。

92 カンラダカ *Emberiza rustica*

冬鳥 毎年11月頃から公園域の疎林や潟畔のヨシ原に10羽内外の小群で観察される。

93 アオジ *Emberiza spodocephala*

漂鳥 1981年5月2日博物館裏山で3羽。1982年5月17日と1984年5月19日1羽づつが博物館ベランダ窓ガラスに衝突。回復後放鳥した。

アトリ科 FRINGILLIDAE

94 アトリ *Fringilla montifringilla*

冬鳥 1978年2月14日金足農高ラグビー場の雪の上に出ているヒメムカシヨモギの種実やキンエノコログサの実などを20羽近い群が啄んでいた。その後は1981年3月4日逢の橋たもとでノイバラの実を啄食する1羽。1984年2月26日博物館管理棟西側のツツジの植え込みに2羽。同月28日菖蒲園で18羽を観察。年により渡来数に差がある鳥種である。

95 カワラヒワ *Carduelis sinica*

留鳥 年間を通じて最もふつうに観察される鳥の一つである。クロマツ・落葉松などの枝上に皿巣をつくっている。晩秋から冬季にかけて10~20羽の小群で移動している。

96 マヒワ *Carduelis spinus*

冬鳥 1974年頃までは金足農高の圃場やマツ林に10羽前後を毎年観察していたが、この10年間では農高林庭圃場で3羽を観察しただけである。

97 ベニヒワ *Acanthis flammea*

冬鳥 1978年2月14日と17日に農高林庭圃場垣根で1羽づつ観察。この年の冬は市街地でも目撃回数が多かった。

98 ベニマシコ *Uragus sibiricus*

冬鳥 1976年4月28日金足農高果樹園内で1羽を観察。1978年2月14日農高陸上競技場北側のマツ林に2羽。渡来個体の少ない鳥種である。

99 ウソ *Pyrrhula pyrrhula*

漂鳥 金足農高前庭には樹齢60年余のソメイヨシノの並木がある。毎年2月中旬あたりから、多い年で20羽前後の群で飛来する。

100 イカル *Eophona personata*

漂鳥 本調査地内での観察例は多くない。1980年4月30日逢の橋東側のアカマツ上でさえざる雄1羽を観察したのが初記録である。のち同年5月30日農高校舎前のスズカケノキで雄1羽が嘯鳴。6月5日は農高ガラス温室上空を鳴きながら飛ぶ2羽を観察。

101 シメ *Coccothraustes coccothraustes*

冬鳥 1978年1月24日農高畜舎上空を男潟方向に飛ぶ16羽を初めて観察した。のち毎年数羽程度飛来している。博物館周囲の芝生には雪消えとともに採餌行動が盛んになる。(今までの最終認日1984年5月9日である)

ハタオリドリ科 PLOCEIDAE

102 スズメ *Passer montanus*

留鳥 調査地では最もふつうの鳥の一つであり、毎年、建造物のすきまを利用し繁殖している。

ムクドリ科 STURNIDAE

103 コムクドリ *Sturnus philippensis*

夏鳥 金足農高果樹園内のアキニレの樹洞では1976年より前から営巣し巣立っている。しかし、1977年6月2日2羽巣立ち後は当地での繁殖は確認されていない。一時的飛来の記録では1980年5月7日女潟で約50羽。同月10日30羽。1981年5月2日博物館前芝生で7羽。1984年5月5日逢の橋たもとで2羽を観察。

104 ムクドリ *Sturnus cineraceus*

留鳥一部(漂鳥) 通年生息しており、個体数でも他種を圧倒している。1977年8月30日には金足農高果樹園上の送電線に1000羽を越す大群が観察された。8月から9月にかけて果樹園のブドウ・ナンなどに集まるためである。

カラス科 CORVIDAE

105 カケス *Garrulus glandarius*

留鳥 当公園周辺では通年観察される鳥種である。群ることはなく、ほとんど単独行動である。個体数も少ない。

106 ハシボソガラス *Corvus corone*

留鳥 毎年一年を通じて観察される。男潟周辺のマ

小泉瀉公園周辺の鳥類

ツ林では毎年1~2巣は巣立っている。

晩秋から冬季にかけては30羽内外の群で結氷した女瀉で餌を採り光景がみられる。

107 ハシボトガラス *Corvus macrorhynchos*

留鳥 ハシボトガラス同様周年目撃する。群をつくることは、あまりない。本調査地西側を国道7号線が縦貫し、イヌ・ネコの交通事故死体が多いが、これを採っているのは本種が多かった。

まとめ

- 1) 本調査地における1985年12月までの通算10年間では32科107種を記録した。なお渡りの区別では留鳥27種・漂鳥19種・夏鳥28種・冬鳥30種・旅鳥2種・迷鳥1種の結果を得た。
- 2) 当公園周辺域で繁殖を確認した鳥種は留鳥のカイ

ツブリ・カルガモ・トビ・キジ・ハクセキレイ・ヒヨドリ・モズ・ヤマガラ・シジュウカラ・カワラヒワ・スズメ・ムクドリ・ハシボトガラスの13種、夏鳥のコチドリ・カッコウ・ツバメ・オオヨシキリ・コムクドリの5種、漂鳥のオオバン1種、合計19種が営巣し、巣立ちしている。

- 3) 環状道路が敷設された現在、女瀉の植生維持のために、水位・水系の確保がきわめて重要である。

文 献

- 日本鳥学会(編)日本鳥類目録 改訂第5版・1974
秋田県環境保健部自然保護課 秋田県鳥類分布調査(6)
西出隆・1977 秋田の野鳥 無明舎
環境庁 秋田県現存植生図 昭和58~61年度調査版
秋田自然史研究会・1974 秋田市金足女瀉の植生

図版1

1. 1978年7月の男瀉、西岸から嶋崎方向をみる
2. 1978年7月の男瀉は湖央部まで浮葉植物が生育していた
3. 1983年1月・女瀉環状道路の建設が進む
4. 1985年7月・女瀉は環状道路完成後ヨシ群落が増加してきた
5. 1985年7月の女瀉東側丘陵は造成工事のため、林木の伐採・火入れで環境は変ってきた
6. 1985年12月の女瀉・瀉向から博物館方向を望む

図版2

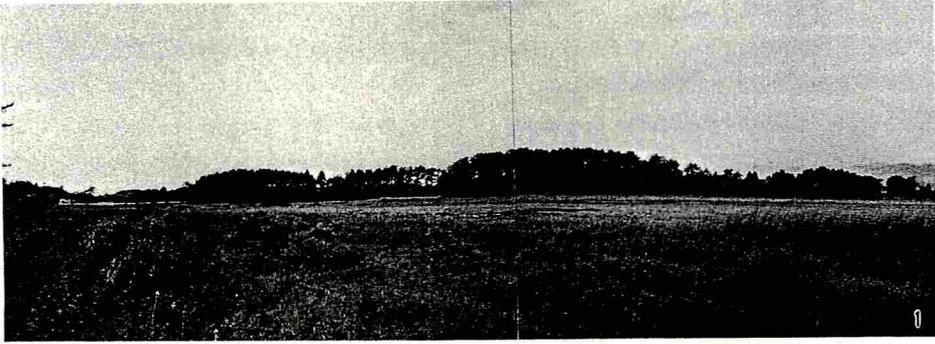
- ①カンムリカイツブリ・手前5羽オオバン 男瀉 1976・11・6 ②オオハクチョウ 女瀉 1982・3・20
③コハクチョウ・左標識鳥 女瀉 1979・3・3 ④カルガモ 博物館屋上 1984・5・4 ⑤ホシハジロ
男瀉 1985・11・18 ⑥オオワシ 男瀉 1978・1・17 ⑦キジ 女瀉 1985・5・11 ⑧コアジサシ
男瀉 1978・6・6

図版3

- ①ツバメ 金足農高畜舎 1976・6・16 ②ハクセキレイ 菖蒲園 1985・4・30 ③ビンズイ 女瀉
1980・5・10 ④アカモズ 博物館前 1984・5・25 ⑤ヒレンジャクとキレンジャク 博物館前 1982・
3・25 ⑥ツグミ 菖蒲園前 1985・4・11 ⑦クイタダキ 金足農高前庭 1976・11・19 ⑧コサメ
ビタキ 男瀉 1980・5・7

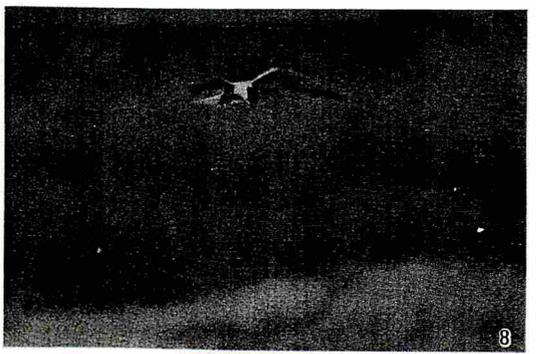
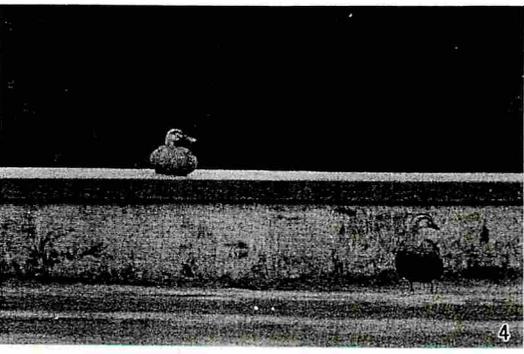
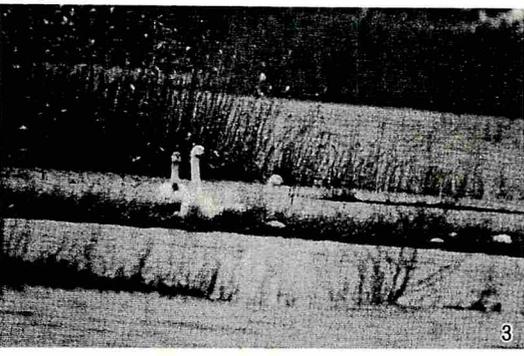
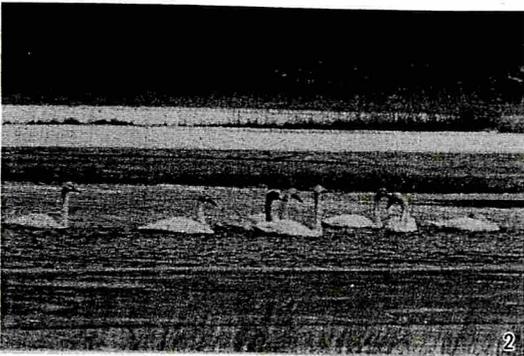
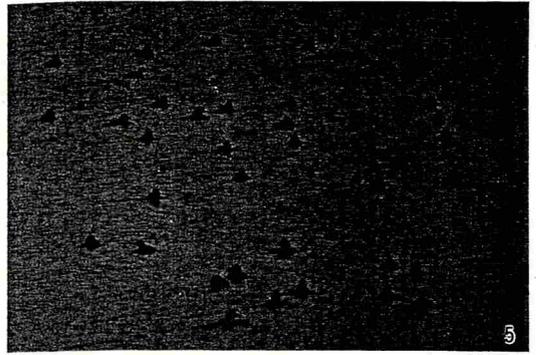
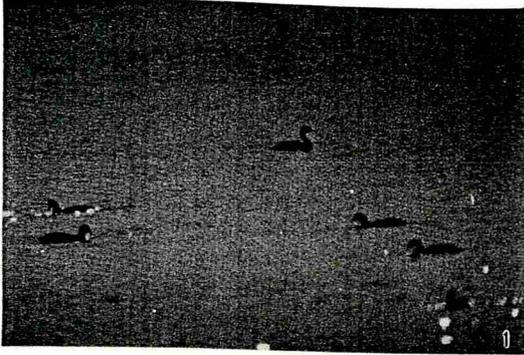
図版4

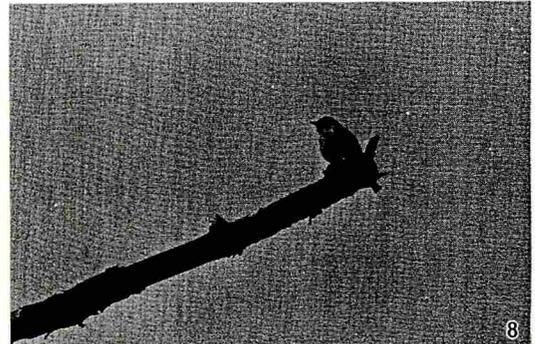
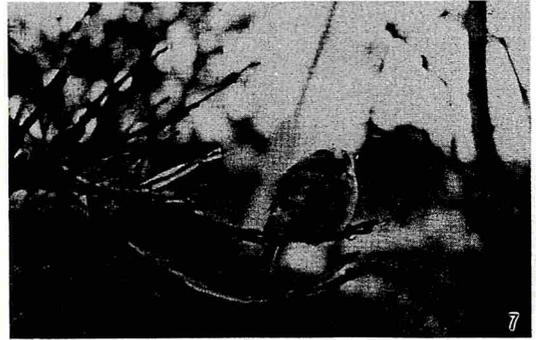
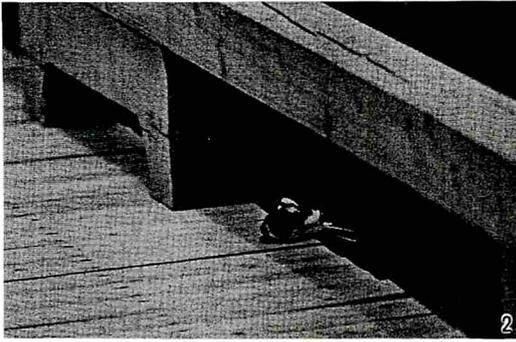
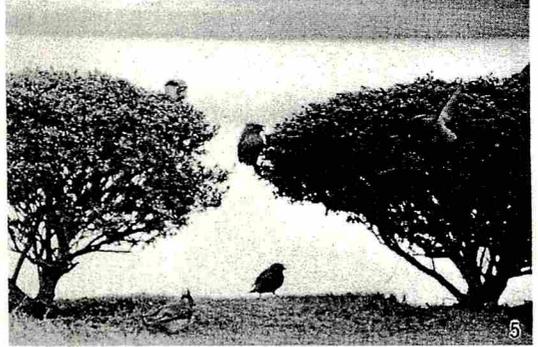
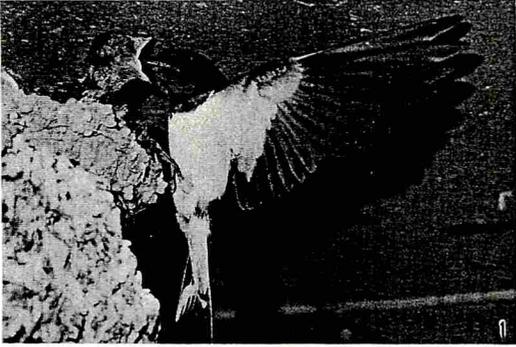
- ①エナガ 博物館裏山 1984・9・20 ②ヒガラ 女瀉 1973・2・14 ③ヤマガラ 女瀉 1981・1・
14 ④メジロ 金足農高前庭 1979・4・28 ⑤アオジ 博物館 1982・5・17 ⑥ウソ 金足農高前庭
1978・2・23 ⑦ベニマシコ 金足農高果樹園 1976・4・28 ⑧ムクドリの群 金足農高果樹園 1977・
8・30



小泉瀉公園周辺の鳥類

図版 2





小泉鴻公園周辺の鳥類

図版 4

